

豚足で広がる交流の輪

宮崎県で話題の「豚足ナイト」に潜入

タルトやテリーヌ、松前漬け……。グロテスクな見た目や面倒な下処理など、これまでネガティブな印象が強かった豚足の流通シーンに異変が起きている。仕掛け人は地元で「豚足王子」の異名をもつ宮崎県の池田吉啓さん。過去に同氏が収集したアレンジレシピ数は冒頭のスイーツ類を含め約300種。そのアイデア発掘を促す場が地元の飲食店と共催する体験型飲食イベント「豚足ナイト」だ。ユニークなイベントの内容を採った。

畜産王国、宮崎県で豚 当初は知人宅での内輪 企画も相次ぐ。 足や豚カシラ肉など副産物の集まりに過ぎなかった 仕掛け人は同社の商品 スの定番イベントとして 物の処理を手がける栗山 が、次第に交流の輪が広 企画部長、池田吉啓さん 共催する飲食店もあるほ ン。狙いは新たなファン か、フルーツの演奏に酔

年、同社社員がヒギナー イベントに発展。これま 向けの食事会として自主 での開催は50回を上回 り、そのユニークな試み に地元メディアとの連動



イベントは県内飲食店との間で50回を超える

開拓とメ ジャー化 だ。過去 の実施申 例をみる とカフェ やバー、 中華、洋 菓子店な ど、会場 は豚足と 一見無縁 の飲食店



イベントでは題目に沿って、多様な豚足の創作料理が提案される

「ママを設定。当日は会場側の料理スタッフが題目に沿って創作料理を考案、SNSなど事前告知で集まった参加者らと和やかに懇親を深めるのが基本的な趣旨だ。池田部長は豚足需要が伸び悩む原因の一つに「レシピ数の少なさ」を指摘する。イベントを通じて共催企業との取引機会につなげたい思いもあ



手軽なカフェメニューにも挑戦 ④骨抜き豚足のスープカレー ⑤豚足バーガー

地元飲食とコラボ

末端視点で気づき発掘

いしれながら豚足料理を味わう、そんな意外性のあるコラボ企画も人気を集めている。イベントは同氏ら主催者が、たとえば薬膳や燻製、ワインに合う豚足料理など会場の雰囲気や最近の食の潮流に配慮した上でその都度、異なるテ

るが、まずは参加者の素直な意見をヒアリングして市場調査に役立てるほか、営業ツールとして料理レシピを収集するのが目的だ。同時に周辺から別名「豚足王子」と呼ばれる池田部長は、自ら広報大使として市場を盛り上げる。テレビやラジオ、雑誌など地元メディアへの露出に加え、会場では参加者の緊張感をほぐすため豚の被り物姿でウクレレを弾き、即興でオリジナルの「豚足ソング」も披露する。

現在は県内活動が主体だが、機会があれば食文化として需要の根強い豚足の形をまねたVサインの「豚足ピース」で記念「豚足聖地」(池田部長)の福岡県や人口の多い首都圏を対象に同様の企画を横展開し、豚足の消費シーンを全国に広げていきたい考え。また同企画と並行して、今後は有識者らを集



⑥ピンチョス(豚足のテリーヌ) ⑦パティシエ考案の豚足タルト

一方、豚足以外の副産物にも思案中の企画がある。それは「キワモノナイト」の開催だ。同企画の対象者は一般消費者ではなく業界の隠れたグルマン、食肉衛生検査所のOB職員ら。彼らの知見を結集し、廃棄同然の低評価で眠るお宝食材を発掘するのが狙い。今後も産地の食品企業として1次事業者と連携し、素材の可能性をつねに探り続けていく方針だ。